



恵まれた立地を背景に 人・モノの流れが活性化

道路・鉄道ネットワークの充実、四日市港の存在、さらには中部国際空港へのアクセスの良さなど、優れた立地とインフラが本市の産業基盤や都市の発展を支えています。今後、高速道路網の集中的な整備や、2027年のリニア中央新幹線の開通により、四日市市を取り巻く人・モノの流れが飛躍的に活性化されることが期待されます。



全国屈指の 産業都市として

産業



明治時代に四日市港が開港すると、繊維産業を中心に、本市にさまざまな近代産業が立地しました。そして戦後、昭和30年代には臨海部に全国屈指の規模を誇る石油化学コンビナートが形成され、わが国の高度経済成長の一翼を担う産業都市へと発展を遂げました。

近年は、内陸部に立地する世界最先端の半導体工場をはじめ、自動車・電機・機械・食品など、多様な企業が集積しています。

時代とともにさまざまな変遷を遂げてきた四日市市の産業の歩みは、日本の経済成長の縮図と言えます。

地域を支える中小企業

本市には、優れた技術やノウハウを有する中小企業が多く存在しています。地域のものづくりを支えるほか、高い技術力で海外へ進出して成功を収めている企業もあります。



海外でも高い需要を誇る金型製品の製造ライン

最先端部材から身近な製品まで
Made in 四日市

半導体

EV

リチウムイオン電池の電解液

自動販売機

風味調味料



社会基盤



道路 四日市 JCT (提供: 中日本高速道路(株))
新名神高速道路(四日市 JCT~亀山西 JCT)の開通と、東海環状自動車道(西回り全線開通)や国道1号北勢バイパスの国道477号バイパスまでの整備などにより、高規格道路の結節点として、地域の発展可能性が大きく高まります。



港 四日市港は、中部圏における国際ゲートウェイとして、背後圏産業の発展を物流面から支える重要な役割を担っています。今後、新たな霞ヶ浦地区国際物流ターミナルの整備により港湾機能の強化が図られ、背後圏産業のさらなる発展に寄与することが期待されます。



中心市街地

利用乗客数が県下最多の近鉄四日市駅を含む本市の中心市街地には、多くの飲食店や宿泊施設、文化・市民活動や就業の場、行政機関など、多種多様な都市機能が集積しています。そして現在、居心地が良く歩きたく魅力的なまちなかを実現するために、中央通りの再編に取り組んでいます。近鉄四日市駅とJR四日市駅の駅前広場を再整備するとともに、近鉄四日市駅の東西には歩行者デッキが設けられ、国が整備するバスやタクシーの乗降場を集約する「バスタ四日市」と直結する計画となっています。さらに、幅員70mの中央通りを1.6kmにわたり歩行者中心の空間として再編するなど、四日市のまちながが大きく生まれ変わります。